



第7章 直接圧迫止血法



一般に体内の血液の20%が急速に失われると出血性ショックという重篤（じゅうとく）な状態になり、30%を失えば生命の危険を及ぼすと言われています。したがって、出血量が多いほど、止血手当を迅速に行う必要があります。出血時の止血法として基本的な方法は、出血部位を直接圧迫する直接圧迫止血法です。



まず、出血部位を確認します。



次に、きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどを重ねて傷口にあて、その上を手で圧迫します。



大きな血管からの出血の場合、片手で圧迫しても止血しないときは、両手で体重を乗せながら圧迫止血をしてください。



第7章 直接圧迫止血法

ポイント

- 感染防止のため、血液には直接触らないようにビニール手袋やビニール袋を使います
- 出血を止めるために細い紐や針金で縛ることは、神経や筋肉を損傷するおそれがあるので行わないで下さい

なお、止血の手当てを行うときは、感染の防止のため血液に直接さわらないよう、ビニール手袋やビニール袋を使用します。

出血を止めるために細い紐や針金で縛ることは、神経や筋肉を損傷するおそれがあるので行わないで下さい。

ポイント

- ガーゼが血液で濡れてくるのは、出血部位と圧迫位置がずれているか、または、圧迫する力が足りないためです

ガーゼ等が染みてくるのは、出血部位と圧迫位置がずれているか、または、圧迫する力が足りないためです。そのときは圧迫位置を修正したり、両手で圧迫するなどをして、強く圧迫してください。

大量出血や出血が止まらない場合

- 大量出血や出血が止まらない場合、ショック症状がみられる場合は、直ちに119番通報



また、大量の出血をしている場合や、出血が止まらない場合、ショック症状がみられる場合は、ただちに119番通報をしてください。